

わたしも ぼくも ボランティア

編集・
発行

社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会 千葉市ボランティアセンター
〒260-8618 千葉市中央区千葉寺町1208-2 千葉市ハーモニープラザB棟3階
TEL:043-209-8850 FAX:043-312-2886 URL:https://chiba-shakyo.jp/volunteer/



核家族(かくかぞく)について知ろう!

★ 兄弟やいとこがいなく自分より年下の子どもと関わる機会が少ない

★ 学校行事で自分より年下の子どもと関わるボランティア活動中に
関わり方が分からない

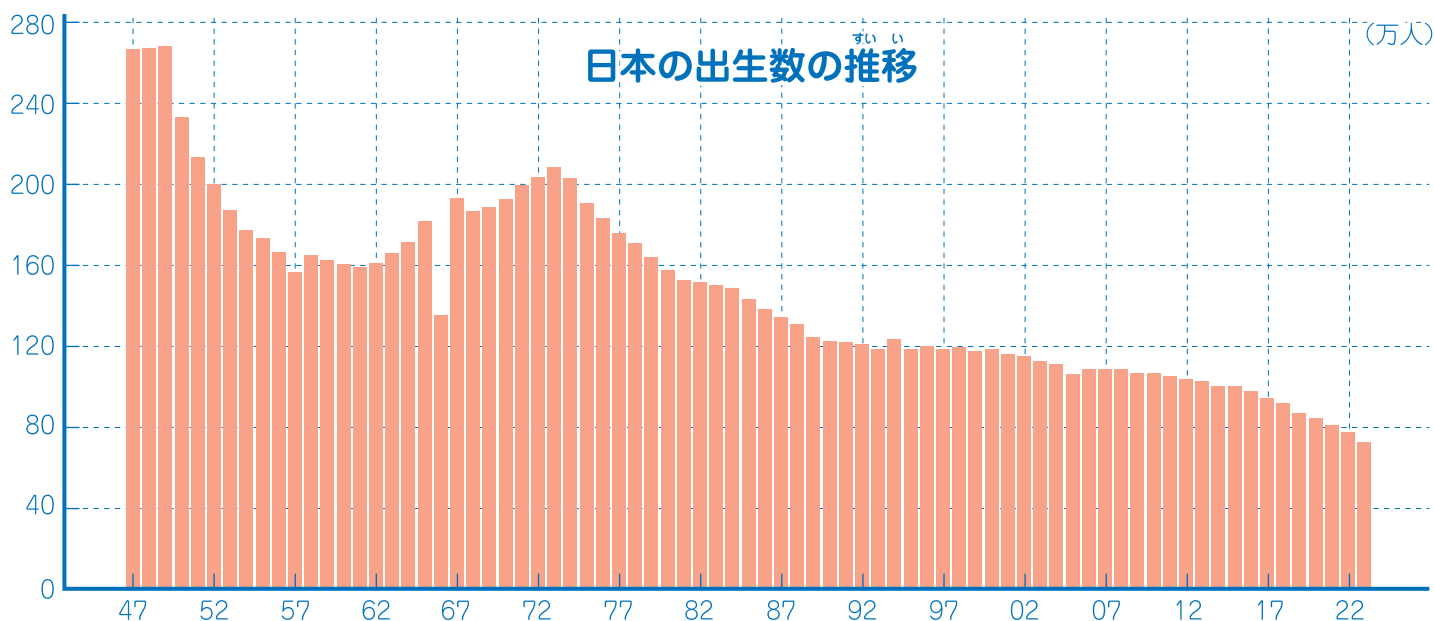
という声を聞くことがあります。それはなぜでしょうか?みなさん理由を考えてみましょう。

自分よりも年下の子どもと関わる機会が減った理由は以下のとおりです。

理由①…出生数(新たに子どもの生まれる数)が減っているため

理由②…核家族(かくかぞく)の問題

理由①…出生数(新たに子どもの生まれる数)が減っているため



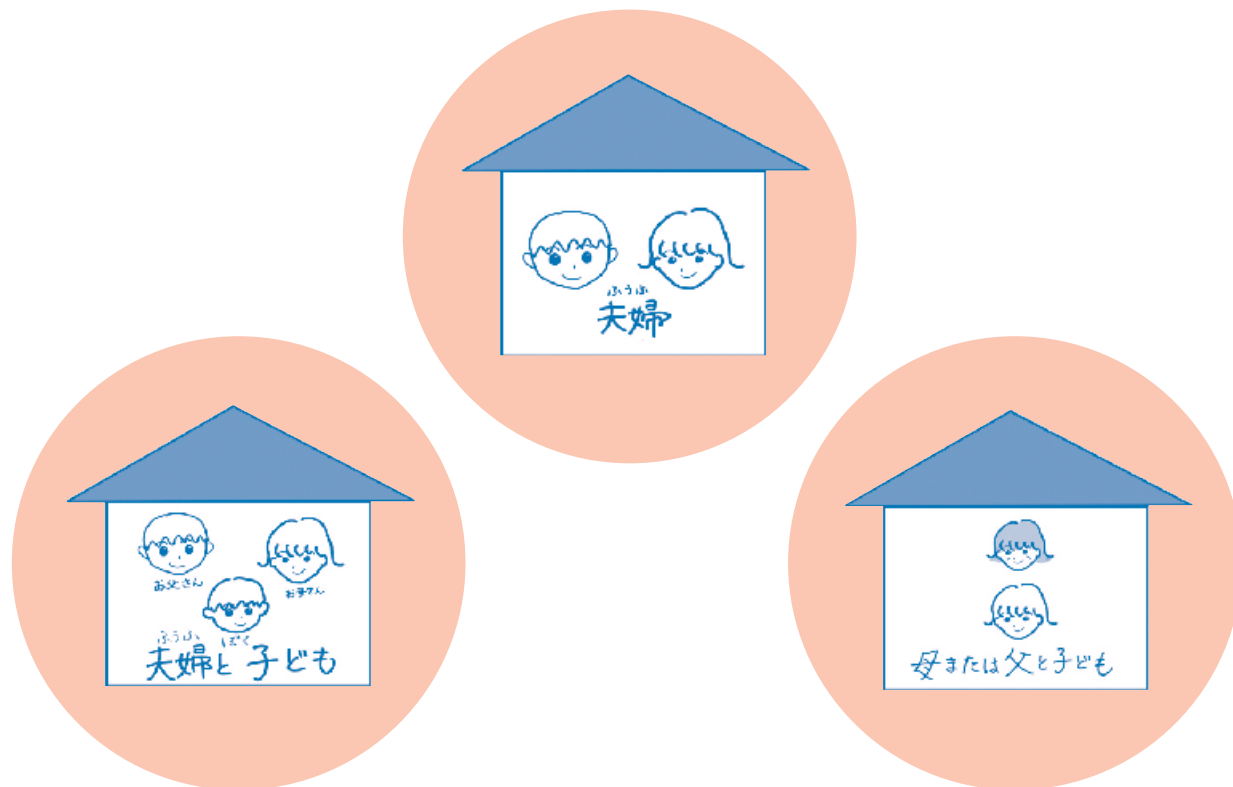
一次ベビーブーム、1971年から1974年にかけての第二次ベビーブームのころに200万人を上回ったが、1970年代中盤以降は減少を続けています。2025年3月発表の最新の人口動態統計によると、2023年の出生数は約72万7277人で過去最低を更新しています。

理由②…核家族(かくかぞく)の問題

核家族(かくかぞく)とは家族の形のひとつです。

「夫婦のみ」「夫婦と未婚の子ども」「ひとり親と未婚の子ども」からなる小さな家族の世帯をいいます。

— 核家族のイラスト —



昔は結婚した子ども世帯と親世帯が同居する大家族の形が多く見られました。

しかし近年は、都心部への人口集中などで核家族化が進んでいます。

※なお、「ひとり暮らし(単独世帯)」は、核家族に含まれません。

— 核家族の割合 —

厚生労働省(国)発表によると、日本の核家族世帯の割合は「約6割」となっています。日本の半分以上の世帯は核家族なのです。

つまり…

- ①そもそも生まれてくる子どもの数が少なく、関わるチャンスも少ない。
- ②核家族化がすすんでおり、身近に子どもが少ない。

これらの理由により、自分より年下の子どもとの関わり方が分からないという声が出てくるのですね。

次のページからは実際に小さな子どもとの関わり方などについて紹介しています。

ぜひ家族や友だちと考えてみてください!

実際に自分よりも小さい子との関わり方を知ろう!

1ページ、2ページで小さい子との関わりは少なくなっていることを学びました。

そこで実際に関わり方と特徴や注意点を学んでみましょう。

また、学校行事などで自分よりも年下の子と関わる機会もあると思います。そのときに小さな子と上手に関わることができるヒントをまとめましたので、ぜひ活かして関わり上手を目指しましょう。今回、紹介する例はその子によって発達の段階が異なることを知っておきましょう。

年齢別の特徴と注意点

0歳児(0歳～1歳)

- ★ 人見知りをする。
- ★ おもちゃに手を伸ばし取ろうとする。
- ★ 触れたものを掴む、口に入れる。
- ★ お座り、はいはい、つかまり立ちをする。

- ★ なんでも口に入れてしまうので危険なものは近くに置かない。
- ★ お座りででき始めつかまり立ちや歩き立ちは転倒しやすいので注意が必要。



1歳児(1歳～2歳)

- ★ 歩き始め、手を使つての動作が増え言葉も話すようになる。
- ★ 大人の真似をするようになる。
- ★ 言葉で十分伝えきれないことがあり、叩いたり噛んだりすることもある。
- ★ ボールころがし等、大人と物の間に入ってふれあい等を楽しむ。

- ★ 子どもの話したい気持ちをやさしく受け止める。
- ★ 危ないときはすぐに止めてあげる。
- ★ 子どもの気持ちに立って、やさしく語りかけて遊ぶ。
- ★ 子どもの自分でやろうとする気持ちを大切にする。

2歳児(2歳～3歳)

- ★ 走る、飛ぶ、登るなど動作が活発になる。
- ★ つまむ、丸める、めくるなど、手や指を使った遊びを楽しむようになる。
- ★ 自分のしたいこと、してほしいことが言葉で伝えられるようになる。
- ★ 自己主張をするようになる。
- ★ 大人との簡単なごっこ遊びが楽しめるようになる。

- ★ 走って物にぶつかったり、登って落ちたりと思わぬ怪我をするので注意が必要。
- ★ 子どもの話を真剣に聞いてあげる。
- ★ 甘えてきたら座ってだっこしてあげる。



3歳児(3歳～4歳)

- ★ 「なんで」「どうして」ということが増える。
- ★ 少しずつ順番や決まりを守って遊ぶようになる。
- ★ 沢山おしゃべりをするようになる。
- ★ 生活に必要なことを少しずつ自分でしようとする。
- ★ 子どものお話をよく聞き、言いたいと思っていることをくみとってあげる。
- ★ 言葉づかいに気をつける。
- ★ はさみや歯ブラシなどを持ったままの立ち歩きに気をつける。

4歳児(4歳～5歳)

- ★ 友達と一緒にいることを喜んだり、楽しんだりするようになる。
- ★ 人の気持ちが分かるようになる。
- ★ からだのバランス機能が発達し、思うようにからだを動かせるようになる。
- ★ 子どもの気持ちに共感してあげる。
- ★ 高いところから飛びおりるなど活動的すぎて事故が起きやすいので気をつける。



5歳児(5歳～6歳)

- ★ 仲間とのつながりが強まることによって、競争心が起き、ケンカが増えてくる。
- ★ 少しずつ我慢できるようになり、問題が起きても自分たちで話し合い解決し、また遊べるようになる。
- ★ 「だるまさんがころんだ」「おにごっこ」「手つなぎおに」などのルールのある遊びを喜ぶ。
- ★ 手遊びは「アルプス一万尺」など少しむずかしいものもやりたがる。

関わり方のポイント

- ★ 呼び捨てで子どもの名前を呼ぶのはやめましょう。
- ★ 大声を出さずに、やさしく話しかけましょう。
- ★ 遊んでいるときは夢中になりすぎず、本気になりすぎないようにしましょう。
- ★ 子どもはお兄さん・お姉さんがいると、嬉しくなってしまう、はしゃいだり騒いだりしてしまうことがあります。一緒に遊ぶのはとても良いことですが、一緒にはしゃぎすぎて、ケガをしない、させないように気を付けましょう。
- ★ 保護者の方や先生の指示に従いましょう。